

“こうべ”の

市民福祉総合計画

2030

まちと福祉を創造する、KOBEへ

2026年3月

基本理念

「“こうべ”の市民福祉総合計画2030」は、その基本理念を次のとおり定めます。

まちと福祉を創造する、KOBEへ

神戸は多様な文化や新しい気風を取り入れてきた、
活気ある開かれたまちです。
こどもから大人まで、性別や国籍、障がいなどに関わらず
多様性にあふれた人々が、
それぞれ異なる個性や能力を持って暮らしています。
その個性や能力が尊重され、発揮できる場所や機会が増えることで、
一人ひとりの可能性が広がっていきます。

急速に変化する社会環境の中、
誰もが暮らしの中で生きづらさに直面することがあります。
神戸はその中であっても、みんながまちの一員として互いに助け合い、
課題解決のために立ち向かっていきます。

神戸に住む人、働く人、学ぶ人、集う人たちが
出会い、ともに語り、つながりながら、
すべての人が安心して一步を踏み出せるまちを創造していきます。



本計画では、前計画の目標であるソーシャル・インクルージョン※(社会的包摂)の考え方を引継ぐとともに、基本理念の実現に向けて3つの方向性に基づき施策を進めていきます。

※個性や能力を発揮する機会から排除されることなく、誰もが包摂される社会のあり方を示す概念

実現に向けた 3つの方向性

方向性1

「まちと福祉を創造する人づくり」

こどもから大人までみんなが協力して暮らすためには、多様な人々が関わりあいを持ち、互いを尊重できる人づくりが重要です。

互いに手を差し伸べあえる人々の力で、神戸のまちは創られてきました。神戸の一番の魅力である人づくりを、これからも支えていきます。

方向性2

「安心を保障できる仕組みづくり」

人々が安心して暮らせるとともに、様々なことに挑戦できるまちにしていくためには、暮らしの中で安全にサポートを受けられることが保障されていなければなりません。

急速に変化する社会環境の中で課題が生じることがあっても、一人ひとりをしっかりと支えられるよう、柔軟かつ安定した仕組みづくりに取り組みます。

方向性3

「人と人がつながり支えあう環境づくり」

一人ひとりの個性や能力が発揮できる場所や機会は、人と人がつながり支え合うことで生まれ、より充実していきます。

神戸に住む人だけでなく、働く人、学ぶ人、集う人たちがつながり、孤立することなく、充実した暮らしを送ることのできる環境づくりを進めていきます。

神戸市では一人ひとりの幸福度（ウェルビーイング）が上昇するまちを目指しています！

子ども食堂を運営



僕は東京で働き終えて神戸に帰ってきたとき、ここには居場所がないように感じたんですよね。それで何か居場所をつくれなかと、思って、特に未来のあるこどもたちの食育をやりたいと居場所を立ち上げました。ここでは学校じゃできない経験を通じて、こどもの“個”が輝ききっかけが増えればいいなって。毎日続けるうちにこどもだけじゃなくいろんな世代の人が集まるようになったし、活動の幅も広がって、ちょうど明日は魚釣り大会をやります。そういうイベントの日も、何もしない日も、居ていいっていう居場所が大事ですよね。



代表
Nさん

ボランティア支援室に参加



祖母の畑で農作業をするのが楽しかったので、自分でもできる活動がないか探していたとき、大学のボランティア支援室で農作業ができると知って参加しました。育てた野菜を地域の方と一緒に収穫して、こどもたちと一緒に料理教室をしたり、食べられない端材を工作に使ってもらったりしています。ボランティア支援室のことを知らない学生も多いので、知り合いに声をかけたり、大学内で説明会を開いたりして活動を広げています。興味のある人全体に活動が届けられるようにしたいですね。



大学生
Yさん

ユースセンターを運営



実家の居酒屋を建て替えるかもしれないと、自分が何をやりたいか？と考えたときに、真っ先に思いついたのが「ユースセンター」でした。知り合いの学生たちが学校に馴染めなかったり、家に居づらくなったりしていることを知って…若者たちが自分らしく過ごせる場であるユースセンターと、地域の人々と交流できる居酒屋の複合施設を作りたい!と思ったんです。その場所を通じていろんな経験をすることで若者たちが納得感を持って生き、将来的にまちの未来へ繋がると嬉しいです。



代表
Iさん

介護予防カフェを運営



病気で仕事を辞めたあと、たまたま居場所養成講座のチラシを見て行ってみました。住んでいる地区で同じ考えの人がおられ、実践出来そうな場所も見付き、偶然が重なって介護予防カフェを立ち上げることに。大変な時期もありましたが、参加者の皆様も増えて、街でもお声がけ出来るようになりました。一緒に活動しているスタッフさんともランチ会をしたりと、人と人のつながりが増えましたし、ありがたく今後とも続けていけたらいいなと思います。



代表
Aさん

ヤングケアラーを支援



きっかけは、私たちが仕事で使う消耗品などを発注するECサイトで、貯まったポイントの使い道を考えたことなんです。ちょうどヤングケアラー問題をニュースで見かけて、まさに私たち介護施設の運営会社として支援できることなんじゃないかと思って。神戸市や地域の皆さんとも協力して、当事者のこどもたちが我々の施設で調理や接客体験をするカフェを開催し、こどもたちが活躍出来る居場所を作っています。施設の入居者さんもすごく楽しみにしてくれているし、社員のモチベーションアップにも繋がって…いいことしかないので、どんどんやっています！



会社員
Kさん

障がい者支援施設で勤務



私はインドネシアから5年前に来日して、障がい者支援施設で介護福祉士として働いています。最初は利用者さんの表情や仕草から気持ちを読み取ることが難しかったのですが、周囲の人がいつも私を助けてくれて、安心できるように声をかけてくれました。利用者さんと「気持ちが通じあえた」と感じる瞬間が、自分の中で一番嬉しい瞬間で、やりがいを感じます。福祉の仕事のために来日する仲間も増えているので、そういう人たちをサポートする側に、いつかなれたらいいなと思っています！



介護福祉士
Cさん

福祉施設で体験活動



福祉施設の体験活動を通して学んだことが二つあります。一つ目は、笑顔は人と人を繋ぐ架け橋であるということ。二つ目は笑顔を交わしお互いの温かさを感じることで、生きていることを実感できるということです。学んだことを活かして、これからは身近なお年寄りや関りがある全ての人に笑顔であいさつしたり、積極的に会話をしたりしたいです。そして思いやりの心を自分だけが持つのではなく、みんなが持てるように、学んだことをみんなに伝えていきたいです。



中学生
Sさん

地域で見守り活動



もともと父が民生委員をやっていたので、地区会長に誘われて地域の見守り活動を始めました。顔を合わせるうちに少しずつ明るくなったり、外出が増えたりする方もいてね。ちょっとお声がけすることで、こんなに変わることもあるんだなと。そういう姿が見られると嬉しいし、出会えてよかったと思います。他の民生委員の仲間も素敵な人たちがいっぱいいて、地域の活動が自分の居場所にもなっています。ご縁に感謝ですね。



民生委員
Mさん

インタビューに関連する取り組み

ボランティアマッチングシステム 「ぼらくる」

神戸市内のボランティア募集やイベントなどを検索することができる情報サイトです。



介護予防活動

住民主体の「つどいの場」を充実させ、楽しみながら介護予防活動が継続できるよう支援しています。



こども・若者ケアラー支援

こども・若者ケアラーの方や関係者から相談を受け付け、個別の支援を行っています。



ワークキャンプ

福祉体験学習(ワークキャンプ)を通じて、中学生・高校生の福祉に対する関心や理解を深めています。



コウベdeカイゴ

介護人材の確保のため、情報発信、住宅手当補助、再就職支援などを行っています。



こどもの居場所づくり

身近な地域にこどもの居場所ができるよう、実施団体の立ち上げや運営支援を行っています。



地域見守り・支え合いシステム

住民が相互に見守り・支え合いができるコミュニティづくりを支援しています。



中高生のための コミュニケーションスペース

中高生が自由に気軽に立ち寄れるフリースペースなどをつくっています。



“こうべ”の市民福祉総合計画2030の
詳細版はこちらから閲覧できます。

